

- 杉並第二小学校の北校舎は昭和35年(築59年)の建設以降、増築を重ね、杉一小を除いて区内小中学校の中で最も古い施設となっています。また、体育館も昭和41年(築53年)に建設しており、改修による長寿命化を図ることは難しい状況です。
- 一方、東側のプール棟は、昭和53年建設(築40年)の耐震建物であり、改築コストを削減するため、改修による長寿命化を図ったうえで存置することも考えられます。

## <プール棟の存置について>

- プール棟を残した場合、容積率80%が上限であり、高低差もある敷地で効率的な施設配置が難しくなる結果、全面改築に比べて校庭面積が狭くなる等の影響が生じます。
- プール棟を存置する場合、将来的には他の改築棟より先に耐用年数に達し改築が必要となりますが、敷地東側にある擁壁等を再度工事しなければならず、二重投資となること、工事スペースの確保の問題に加え、工事期間中の小学校の教育環境への影響など、将来の改築時に大きな課題を残すことになります。
- 西側の鎌倉街道は幅員が狭く、交通量が多いため、工事中の児童の安全確保を図るため、主に東側道路から工事車両を搬入することが望ましいと考えます。

これらのことを総合的に判断し、杉並第二小学校の整備に当たっては、全面改築を基本とします。

▼ E案でプール棟を残した場合の校舎配置イメージ

